資料１

（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン
～みんなでつくる「快・適」なまち！～
【原案】

意見反映版

令和3年7月
千　葉　市

はじめに

「千葉市スマートシティ推進ビジョン」は、私たちが将来にわたって快適な生活が続けられるまちを実現するため、目指すべき将来像や取組みの方向性を共有するために策定するものです。

私たちが直面している少子高齢化や地球温暖化に伴う気候変動などの社会課題は、今後ますます深刻化する懸念があり、行政のみならず、全ての市民や事業者の皆さんと一体となって解決に向けて取り組んでいく必要があります。

また急速に進展するICTやAIといった新しい技術は、多くの社会課題の解決の糸口となる可能性を秘めています。千葉市では、これまでも積極的に新しい技術を導入してきましたが、今後も社会課題解決のための重要な要素となります。

本ビジョンには、千葉市が考える「スマートシティとはなにか？」「どんなことが実現できるのか？」、そして「どのように課題の解決に取り組んでいくのか」を示していますので、皆さんとともに、快適で持続可能なまちをつくりあげていきたいと考えています。

ビジョンの構成

１　策定趣旨　…1

２　位置付け・期間　…2

３　千葉市の現状・特徴　…3

４　策定の背景　…4
（１）本市を取り巻く重要な社会変化
（２）これまでの主な取組み
（３）テクノロジーの進展
（４）国の動向

５　基本的な考え方　…11
（１）千葉市が目指すスマートシティ
（２）スマートシティ実現のための原則と重視する視点

６　取組みの方向性～５つのスマート！～　…16
〔暮らし・ビジネス・学び・まち・市役所〕

７　推進体制・推進手法　…22

８　ロードマップ　…25

1　策定趣旨

本市は、将来予想される重要な社会変化に対し、持続可能なまちづくりを進めるため、急速に進展するテクノロジーと、これまで培ってきたICT活用に関するコミュニティやノウハウを最大限に活かし、地域とともに「スマートシティ」の実現を目指します。

策定の背景　※詳細は6ページ以降参照

①本市を取り巻く重要な社会変化

- ✔ 人口減少・少子高齢化の進展
- ✔ 地球温暖化による気候変動
- ✔ 大地震の発生による被災リスク
- ✔ 新型コロナウイルス等感染症拡大リスク
- ✔ 公共インフラの老朽化

②これまでの取組みによる成果

- ✔ 「時間を返す」市民サービスの実現
- ✔ 市民全員参加のまちづくり
- ✔ 国家戦略特区制度を活用した実証

③テクノロジーの進展

- ✔ IoT・センシング技術
- ✔ 分析・予測技術
- ✔ 通信・ネットワーク技術
- ✔ 自動制御技術

④国の動向

- ✔ Society5.0の提唱
- ✔ デジタル・ガバメントの推進

さらなる飛躍・発展を遂げるための好機が到来

テクノロジーの活用などにより市域全体の生活の質の向上を図り、地域とともに持続可能なまちづくりを進めるため、目指すスマートシティの姿や取組みの方向性を地域住民や民間企業など、異なる役割を担う多くのプレーヤー（ステークホルダー）と共有する**「（仮称）スマートシティ推進ビジョン」**を策定

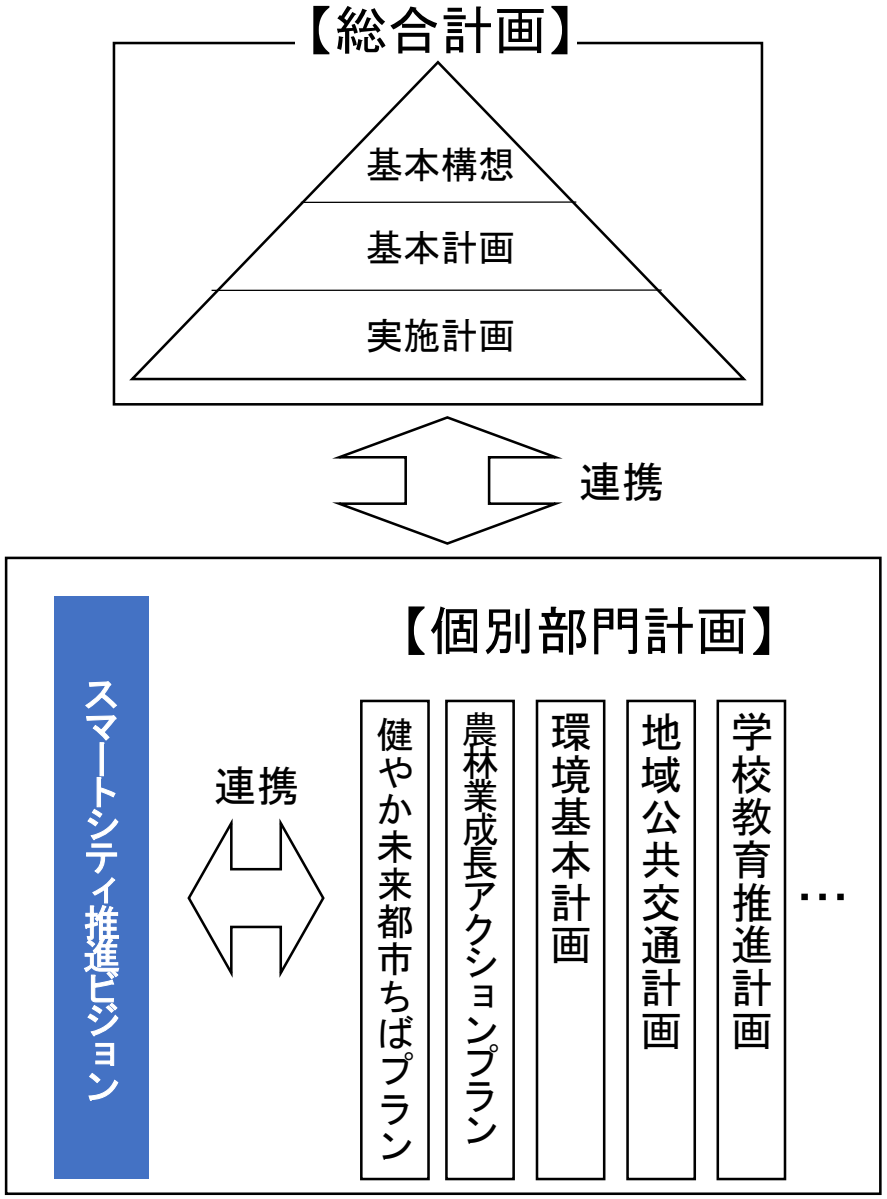
2 位置付け・期間

【位置付け】

総合計画におけるまちづくりを推進し、スマートシティを実現するため各個別部門計画と整合を取りつつ、分野横断的な指針として策定

【期間】

20年後を見据えての10年程度を対象
※国の政策の方針や先端技術等の動向を踏まえ、
5年程度を目安に見直す。



3　千葉市の現状・特徴

①地理

・東京都心まで約40km、成田国際空港まで約30kmの場所に位置。

・市域面積は約272㎢。

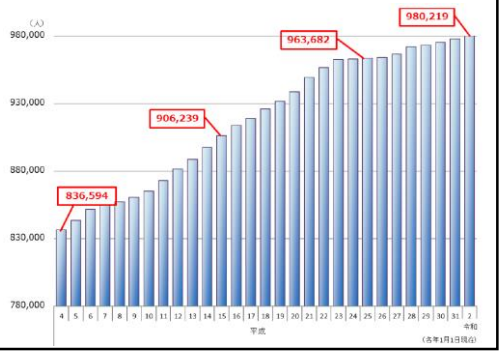
・沿岸部には日本一の長さの人工海浜が、内陸部には田園や里山が広がり、大都市でありながら緑と水辺に恵まれている。

②人口

・人口は安定的に増加し続け、約98万人。世帯数は約43万世帯。

・本市への転入は県内からが中心で、主に市以東、以南の都市からの転入人口に支えられている。

【人口の推移（推計人口）】



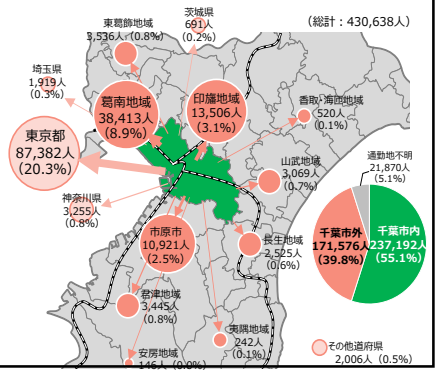
③人の動き

・職住近接かつ、広域的な仕事や学びの場として高い拠点性を有する。

・市民の通勤先は市内が58.0%と過半数を超える。

・昼夜間人口比率は97.9%(首都圏政令市最大)

【市内居住者の就労地】

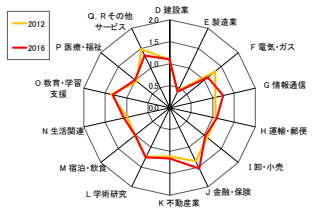


④経済と産業の動向

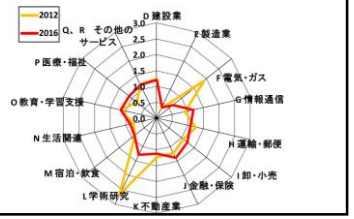
・第３次産業の比重が高く、産業構造は概ね全体的なバランスが取れている。

・情報通信業や飲食料品等を中心とした多様な産業の育成・集積を図り、域外収入を稼ぐ手段の多様化が必要。

【産業大分類別従業者数の特化係数】



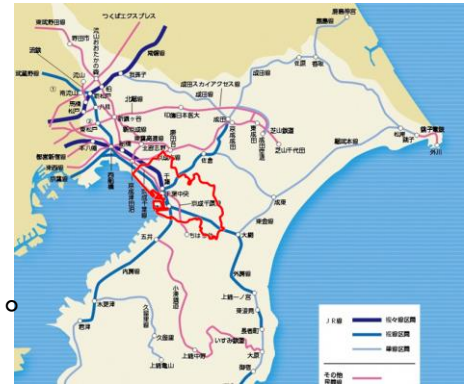
【産業大分類別付加価値額の特化係数】



⑤交通

・鉄道や幹線道路の結節点であり、県内交通における重要な地点になっている。

・鉄道・モノレール・バスが公共交通網を形成しているものの、首都圏政令市と比較すると自動車依存率が高い。



⑥歴史

・縄文時代の遺跡が面積比率で全国１位。加曽利貝塚は日本最大級の貝塚として、国の特別史跡に指定。

・鎌倉時代に千葉氏の隆盛により、まちの繁栄が始まる。

・2021年に市制施行100周年を迎えた。

・2026年に千葉開府900年を迎える。

4　策定の背景①

（１）本市を取り巻く重要な社会変化

人口減少・少子高齢化など、今後本市が直面することとなる重要な社会変化について整理します。これら社会変化の到来に備え、柔軟かつ持続可能なまちづくりが求められます。

○　人口減少・少子高齢化

現状	今後直面する社会変化
・東京から50km圏は人口増減の境界線、本市は人口増加地域の波打ち際 ・出生者が死亡者を下回る「自然減」の状態 ・市以東、以南地域の人口は既に減少 ・2020年をピークに人口減少に転じる見込み（平成27年国勢調査を基準とした将来推計） ・合計特殊出生率は2016年から低下し、2019年は1.26	・高齢化率は2055年に約4割まで上昇見込み ・高齢者の増加に伴う社会保障費の増大 ・生産年齢人口の減少に伴う税収減

○　地球温暖化による気候変動

現状	今後直面する社会変化
・気温の長期的な上昇傾向（記録的猛暑の発生） ・氷河、氷床の融解による海面水位の上昇 ・令和元年の台風や大雨により、電力・通信の断絶が生じるなど市民生活に甚大な被害が発生。その経験を教訓として、「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定	・猛暑や大雨・洪水被害等、自然災害の深刻化・頻発化 ・気温や海水温・海面水位のさらなる上昇 ・生態系の変化（環境に適応できない生物の絶滅）

4 策定の背景②

○ 大地震の発生による被災リスク

現状	今後直面する社会変化
・東日本大震災では、液状化現象により、家屋や公共施設等に甚大な被害が発生するだけでなく、通信網や交通網の混乱により、多数の帰宅困難者が発生 ・東日本大震災や熊本地震、千葉市地震被害想定の調査結果等に基づき、地域防災計画を修正	・政府は、今後30年以内に、市役所地点が震度6弱以上の激しい揺れに見舞われる確率を62%と予測 ・首都中枢機能への影響や、火災や帰宅困難などによる膨大な被災者の発生

○ 新型コロナウイルス等の感染症リスク

現状	今後直面する社会変化
・新型コロナウイルスの影響 → 感染症患者が多数発生 → 緊急事態宣言の発出等により、社会経済活動が停滞 → 市民・企業とともに社会を変えるチャンスととらえ、「ちばしチェンジ宣言！」を発出	・ポストコロナ社会の到来 ・デジタル化の急速な進展。経済活動、社会活動におけるサイバー空間（仮想空間）の活用の加速 ・有効な解決策を持たない新たな感染症が流行し、再び社会経済活動の停滞や市民生活が制限されるおそれ

○ 公共インフラの老朽化

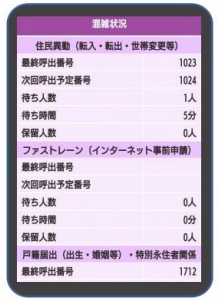
現状	今後直面する社会変化
・公共施設・道路・市営住宅等の公共インフラの老朽化が進展 ・長寿命化計画の策定。計画に基づく維持管理の実施 ・安全点検等の保全業務を行う技術者の不足	・インフラの老朽化が一層進行し、更新時期を迎えるインフラが多数発生 ・インフラの更新に莫大な費用が発生 ・安全点検等の保全業務を行う技術者不足の深刻化

（２）これまでの主な取組

本市では、これまでも市民に時間を返す市民サービスや、官民協働の推進、産官学の連携による国家戦略特区制度を活用した実証等、テクノロジーを活用した取組みを積極的に推進しています。

○「時間を返す」市民サービスの実現

区役所窓口の混雑状況の配信



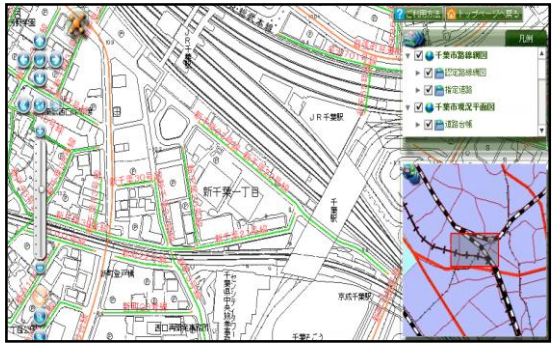
スマートフォンの表示例

プッシュ通知の流れ

【取組内容】
- パソコンやスマートフォンから、区役所窓口（市民総合窓口課）の待ち人数や時間、呼び出し中の番号をリアルタイムで表示
- 窓口の呼び出し順が近づいたらプッシュ通知

【取組の趣旨】
- 市役所への滞在時間の最小化
- 来庁者の分散化による混雑回避

地図情報のインターネット公開



【取組内容】
- 本市が管理する道路等の認定道路網図をはじめ、都市計画情報、建築基準法指定道路図、下水道施設平面図等の情報を、インターネットで提供

【取組の趣旨】
- いつでもどこでも誰でも地図情報が閲覧可能になることによる市民サービスの向上
- 職員の窓口業務の負担軽減

4 策定の背景④

○市民全員参加のまちづくり

市民協働プラットフォーム「ちばレポ」の運用

スマートフォンの
表示イメージ

ちばレポの流れ

【取組内容】
- 市民からレポートされる地域の課題（道路や公園の損傷等）をWEB上で可視化・共有化し、市民協働により解決可能な課題は市民の力で解決を目指すサービスを提供

【取組の趣旨】
- まちづくりへの協働意識の高まり
- いつでもどこでも誰でも行政・市民と共有可能
- 行政の業務処理の効率化

ちばシティポイント

ボランティア関連活動

健康維持・増進活動

市の推進する施策等

ちばシティポイントの対象事業（2021年５月現在）

【取組内容】
- ボランティア関連活動や健康維持・増進活動等に参加することでポイントを付与
- 貯めたポイントは電子マネーや特典品への交換、ＮＰＯ法人への寄付等が可能

【取組の趣旨】
- 市民等の対象活動への参加意欲の向上
- 地域コミュニティの活性化

4　策定の背景⑤

○国家戦略特区制度を活用した実証

自動運転・パーソナルモビリティ※1の走行実証

次世代モビリティの一例

【取組内容】自動運転バスやパーソナルモビリティ等の公道実証等
【取組の趣旨】都市の回遊性の向上、ラストワンマイル※2の課題解決等

ドローン宅配実証

【取組内容】
東京湾臨海部の物流倉庫から幕張新都心まで東京湾上空を飛行し、若葉住宅地区のマンションに宅配（千葉市ドローン宅配構想）
【取組の趣旨】
配達時間の短縮等による利便性向上、物流に係る人手不足の解消等

シェアリングエコノミー※3の活用推進

【取組内容】
イベントホームステイ、特技や趣味等の体験提供による観光まちづりの推進に向けたサービス提供者の発掘・育成・実践機会創出
【取組の趣旨】地域共助の促進

都市部におけるオンライン服薬指導

【取組内容】市内在住の患者にオンライン服薬指導を実施
【取組の趣旨】生活の利便性向上、医療機関や薬局での待ち時間の解消

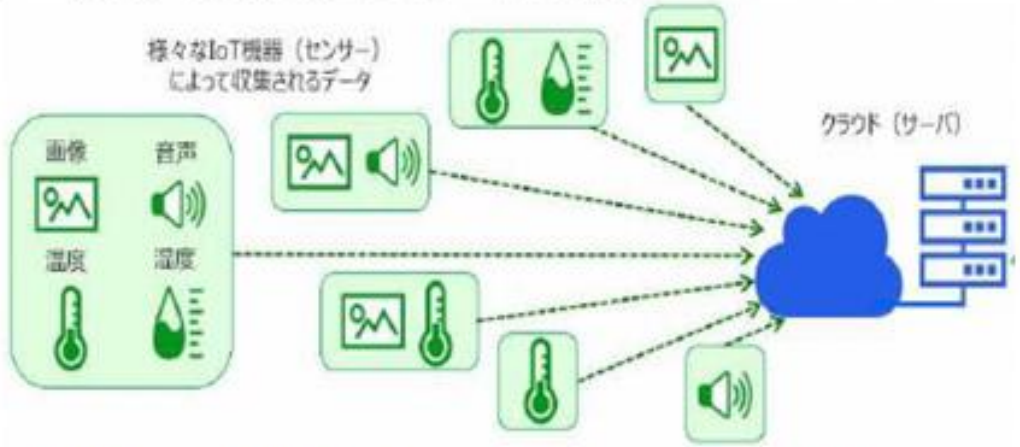
※１　主にバッテリーを動力源とした1人乗りの簡便な乗り物や移動機器
※２　バス停や駅から自宅までの間など、到着場所から最終目的地までの比較的短い距離の移動手段
※３　個人等が保有する活用可能な資産等をマッチング事業者を介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動

（３）テクノロジーの進展

近年、センサーにより収集した情報をIoT機器を通じて蓄積する「IoT・センシング技術」、自動車やロボット等を自動制御する「自動制御技術」、多種多量のデータを高速に転送する等の「通信・ネットワーク技術」、蓄積された膨大なデータを統合・AI等が分析・予測する「分析・予測技術」等のテクノロジーが急速に進展しています。これらのテクノロジーは持続可能なまちづくりを実現するためのツールとして有効です。

IoT・センシング技術

各種センサーにより情報を収集するとともに、IoT（モノのインターネット）機器を通じてデータを蓄積



出典：総務省「ICTスキル総合習得プログラム」https://www.soumu.go.jp/ict_skill/

自動制御技術

自動車やロボットの自動制御に向けた取組の進展

自動運転

配送ロボット

出典：内閣府SIP「SIP CAFE」
https://sip-cafe.media/

4 策定の背景⑦

（４）国の動向

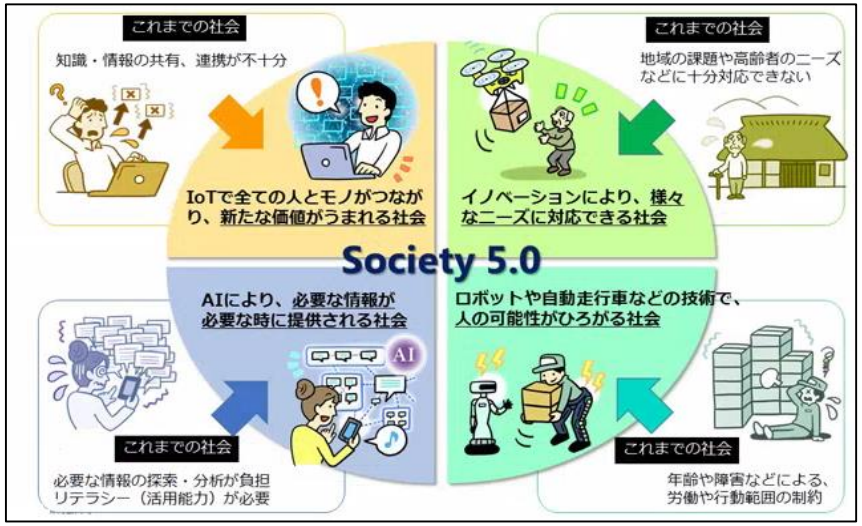
急速なテクノロジーの進展やシビックテック※1活動の活発化を背景に、先端技術等のテクノロジーをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな社会の実現を目指しています。

本市はこれまでもテクノロジーを積極的に活用した市民サービスを提供しており、ノウハウやコミュニティを有していることから、新たな社会を実現しやすい環境にあります。

【Society5.0の提唱】

IoTによりサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともに、AI等の活用により量と質の全体最適をはかる社会として「Society5.0」を提唱

○ Society5.0で実現する社会

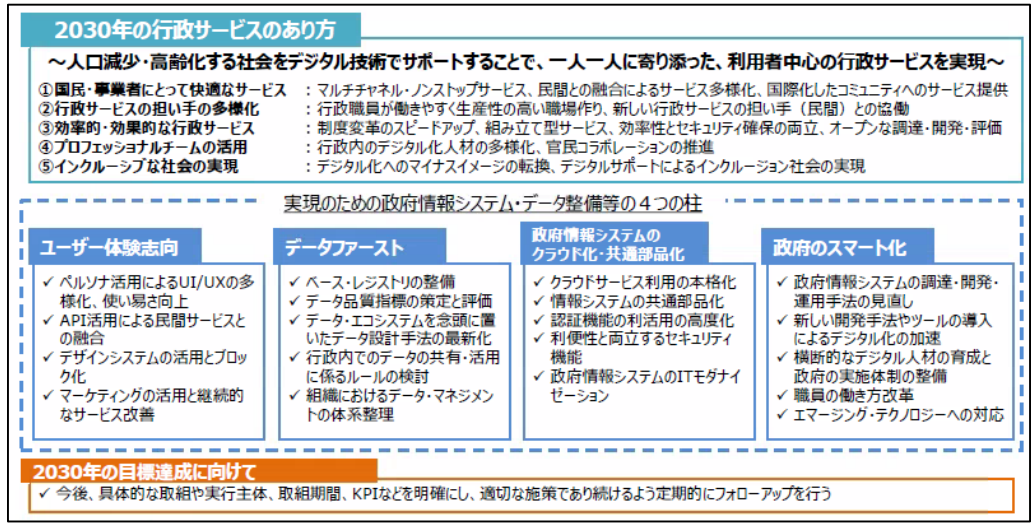


出典：Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」（内閣府）

【デジタル・ガバメント※2実行計画】

Society5.0の実現に向け、デジタルファースト・ワンスオンリー・ワンストップを３原則に、行政サービスを100%デジタル化し、利用者中心のサービス提供を目指すための具体的な実行計画

○ デジタル・ガバメント実現のためのグランドデザイン



※１　Civic（市民）とTech（テクノロジー）を掛け合わせた造語で、市民がテクノロジーを活用して、地域が抱える課題を解決しようとする取組み
※２　デジタル技術を活用しながら行政サービスを見直し、国が抱える社会問題の解決や経済成長を実現するための改革

（1）千葉市が目指すスマートシティ

みんなでつくる「快（かい）・適（てき）」なまち！

快（ここちよく）、適（ちょうどいい）なまち

・あらゆる市民が自分に最適な暮らしを実感できる

・様々な主体が、地域の課題解決、新たな価値の創造に取り組んでいる

・自然環境と社会資源を活かした持続的な発展

5　基本的な考え方②

○千葉市が目指すスマートシティのイメージ

MaaSによる
無駄のない移動

再生可能エネルギーの活用

ロボットによる労働支援

公共サービスのオンライン化

ライフスタイルに合った
働き方

快（ここちよく）、適（ちょうどいい）なまち！

キャッシュレス決済の普及

市民一人ひとりが活躍するまちづくり

地域課題解決、新たな価値・サービスの創造

ICTを活用した多様な学び

分野横断、データを活用した持続的な発展

データ分析を活用した
健康寿命の延伸

5　基本的な考え方③

（２）スマートシティ実現のための原則と重視する視点

目指すスマートシティの実現に向けた考え方の基本的な事項として「３つの原則」、その上で取り組むにあたって留意すべき事項を「５つの視点」としてそれぞれ整理し、原則・視点に則った取組みを推進します。

３つの原則

①市民中心

・市民中心を最重要原則とし、市民と一体となってまちづくりを実現

・市民一人ひとりが活躍できるような環境の実現

・市民とともに自分に合った利用しやすいサービスを創出

②課題解決・価値創造

・地域課題を解決するための手段として、テクノロジーを活用

・チャレンジ精神をもって取組み、イノベーションによる新たな価値やサービスを創造

③分野横断・全体最適

・サービス同士の連携をはじめ、行政や民間を含めた様々なデータ連携によるサービス創出

・分野横断・全体最適の取組みにより、環境にやさしい持続可能なまちづくりを推進

5　基本的な考え方④

５つの重視する視点

①多様な主体間の連携

・大学・民間企業・関係団体・市民グループ等、多様なステークホルダー同士が連携を深め、各者が保有する豊富な知見・データを活かした取組みを推進

②自立性・持続性

・将来予測を踏まえた経済的な持続性を考慮した仕組みの検討
・サービス利用者・提供者の双方がメリットを享受できる仕組みを意識

③個人情報の取り扱い

・実施サービスごとに取り扱いルール（事前同意、透明性の確保など）を定め、市民が安心してサービスを利用できるよう個人情報の取り扱いを明確化

④安全・安心の確保

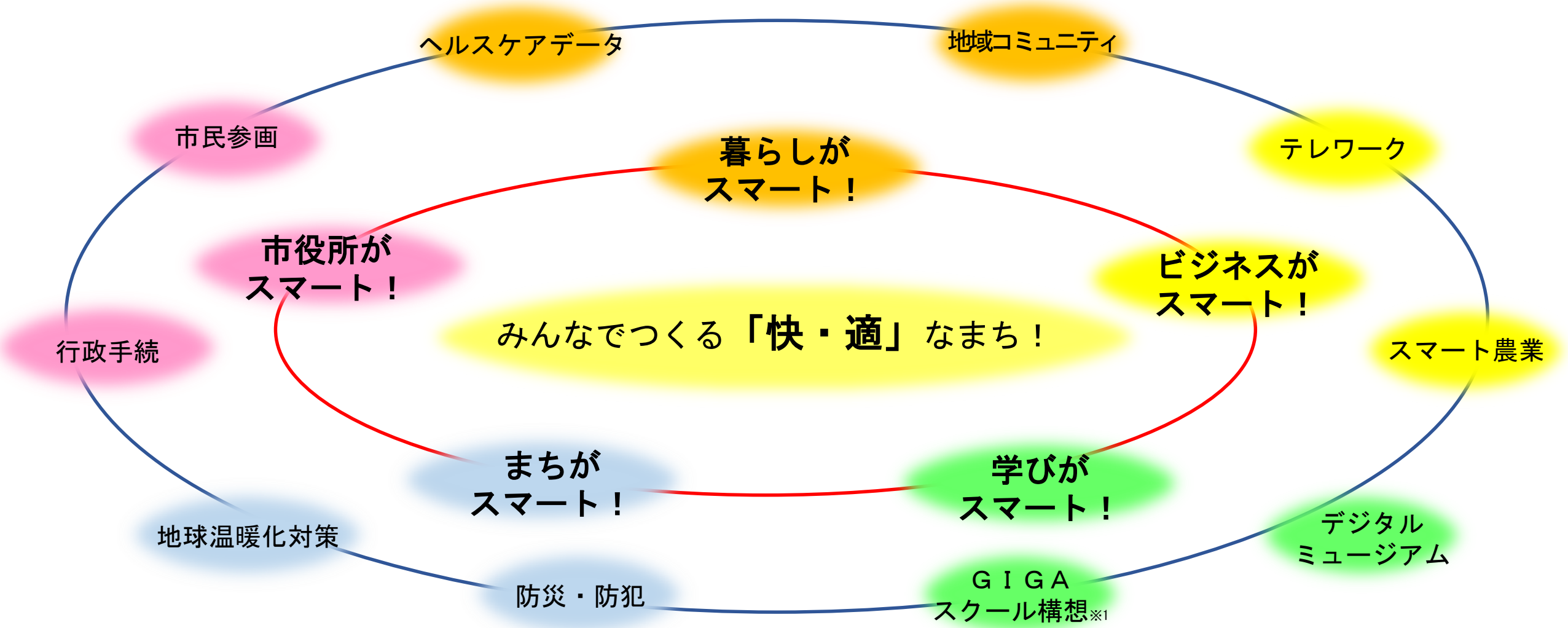
・安全・安心を実感できる犯罪・事故の抑止、有事への備え
・サイバー攻撃等に対応した強固な情報セキュリティ対策の実施

⑤データ活用による課題解決

・データの分析により得られた科学的根拠の活用
・データ活用により課題解決策を導くためのデータ活用人材の育成

6　取組みの方向性　～5つのスマート！～

目指すスマートシティの市民（利用者）目線での実現に向けて、あらゆる分野を「暮らしがスマート！」「ビジネスがスマート！」「学びがスマート！」「まちがスマート！」「市役所がスマート！」の５つに分類し、市民ニーズや地域課題に基づく様々な取組を分野横断的に順次実施していきます。



※１　GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することにより、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に出すことを目指した取組み。

6　取組みの方向性（その１）　暮らしがスマート！

千葉市 CHIBA CITY

目指す姿

・あらゆる市民が

場所や時間を問わないサービス、活発なコミュニケーション

によって

健康な生活、充実した生活を得られる

	方向性	取り組み例
場所や時間を問わないサービス	ニーズに対応したサービスの普及	・多様なサービスのオンライン提供（遠隔医療等） ・シェアリングエコノミー（遊休地の利活用等）
活発なコミュニケーション	連携・協働の実現	・双方向コミュニケーションによる共助 ・地域情報のデジタル化による共有
健康な生活	健康寿命の延伸	・ヘルスケアデータ分析を活用した保健指導 ・運動量や生活習慣のデジタル化による健康の可視化
充実した生活	生きがいを持った生活	・個別に最適化された多様な選択肢の提供

6　取組みの方向性（その２）ビジネスがスマート！

千葉市 CHIBA CITY

目指す姿

あらゆる人材が、活躍できる多様な就労環境をつくりあげることによって

・働く人が、仕事と生活のバランスを保ち、やりがいや向上心をもって働く

・事業者が、新しい価値の創出や生産性の向上を実現

	方向性	取り組み例
活躍できる多様な就労環境	個性を活かした人材活用 多様な就労環境の提供	・RPA、ロボット等の導入による就労支援 ・新しい技術や手法を活用できる人材の育成 ・テレワークの促進や柔軟な勤務体系
仕事と生活のバランス	ライフスタイルに合った就労	・安心して働くことのできる環境づくり ・多様な人材の社会進出促進
やりがいや向上心	個性や能力に合った、自分らしい労働、自己研鑽	・就労時のマッチング支援 ・スキルシェア
新しい価値の創出や生産性の向上	積極的な技術・アイデア導入 社会ニーズに対応した産業の創出	・技術とニーズのマッチング ・新産業創出、起業支援 ・DXの推進による生産性向上

6　取組みの方向性（その３）　学びがスマート！

千葉市 CHIBA CITY

目指す姿

あらゆる市民が

・時間や場所を問わず、多様な方法で、生涯にわたり個々に合わせた質の高い学びに取り組むことができる

・千葉市に対して愛着を持ち、郷土について学ぶことができる

	方向性	取り組み例
時間や場所を問わず 多様な方法	多様な学びの手法	・オンライン学習などICT技術の活用 ・デジタルディバイドの解消
生涯にわたり	学ぶ機会が途切れない	・文化・芸術・スポーツに親しめる環境整備 ・生涯学習に関する情報提供の充実
個々に合わせた 質の高い学び	個別に最適化された学習	・データを活用した児童生徒に対する指導 ・学習コンテンツの充実
千葉市に対して愛着	千葉市らしさの理解が深まり、まちへの愛着を持つ	・将来の千葉市を支える人材育成 ・文化財のデジタル化による保存・活用

6 取組みの方向性（その4） まちがスマート！

千葉市 CHIBA CITY

目指す姿

あらゆる市民が

・暮らしを支える充実した基盤のもと、安全安心な生活を送ることができる

・環境にやさしく、水辺や緑と調和した、千葉市の魅力を感じることができる

	方向性	取り組み例
暮らしを支える充実した基盤	ストレスのないインフラ網 快適に移動できる交通手段	・生活インフラの効率的な維持管理 ・MaaS、次世代モビリティサービス
安全安心な生活	犯罪・事故の抑止 有事への備えの充実	・カメラやAIを用いた危険個所の把握 ・AI、ICTを活用した適切な災害対応
環境にやさしく	自発的な環境保全行動 資源・エネルギーの最適化	・ごみ削減などデータを活用した効果の可視化 ・環境負荷の少ない再生可能エネルギー利用
水辺や緑と調和	豊かな水辺や緑に親しむことのできる環境	・景観に配慮したまちづくり ・多様な主体との連携による自然保護
千葉市の魅力を感じる	千葉市に住んでいて良かったと感じる	・千葉市の魅力・観光資源発掘 ・MICE等の機会を通じたICTを用いた魅力発信

6　取組みの方向性（その5）　市役所がスマート！

千葉市 CHIBA CITY

目指す姿

・市民を中心とした多様な主体が**市政に参画**し、**共に公共サービスを創り**、地域課題を解決することができる

・一人ひとりの**ニーズに合わせた公共サービス**を選ぶことができる

・市役所は、**積極的にスマートシティの実現**をリードする

	方向性	取り組み例
市政に参画	参画意欲の醸成	・ワークショップなど多様な方法やオンラインの活用 ・効果的な広報による市政情報への接触機会向上
共に公共サービスを創る	多様な主体との連携・共創	・ICTを活用した情報共有 ・データ連携、オープンデータ化
ニーズに合わせた公共サービス	提供内容・方法の充実	・サービスのオンライン化 ・プッシュ型サービス、対話型サービス
積極的にスマートシティの実現	社会変化への対応	・行政DXの推進 ・積極的なデータ活用

7　推進体制・推進手法①

○全庁横断で推進

・スマートシティ推進に資する取組みは本ビジョンに基づいて推進し、次期基本計画における実施計画事業・個別計画事業に位置づけて進捗を管理

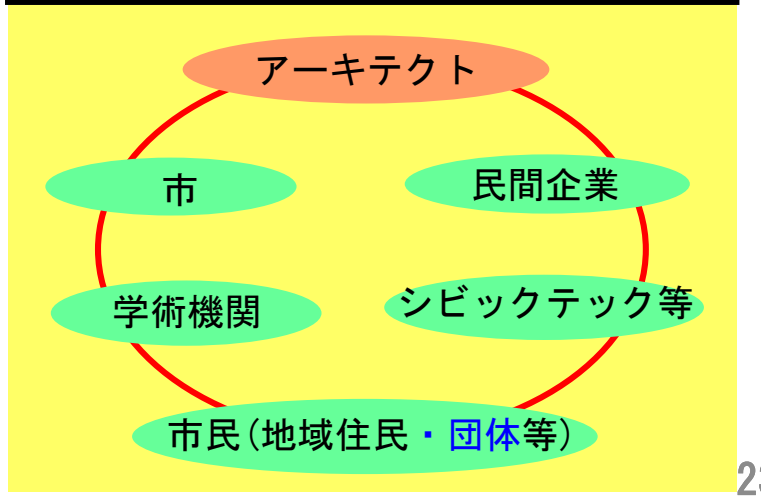
○産学官民での協力

・国内外のスマートシティの取組みに詳しい有識者に対して、必要に応じてアドバイスを受けられる環境を整備
・取組単位で、有識者や民間事業者、庁内関係課をはじめとするステークホルダーを巻き込んだ検討チームを必要に応じて設置
・検討チームの設置に当たり、実施取組ごとに最適なステークホルダーを選定するためのマッチングを実施
・推進状況等を踏まえ、必要に応じて、産学官民で構成する全市域を対象とした運営形態を検討

○シビックテックや地域住民・団体等との連携・協働

・サービスの持続性やより市民目線に立ったサービスを提供する観点から、テクノロジー活用に関する知識と課題解決に前向きな想いを持ったシビックテックと有機的に連携し、将来を見据えたサービスを検討・実施
・地域住民や団体等との連携により、稼働世代を始めとする幅広い年齢層がプレイヤーとして参加する中で、地域に根付いた多様な意見を引き出し、課題解決策に活かすなど、協働によるまちづくりを推進

検討チームの構成例



7　推進体制・推進手法②

○できることから着実に推進（スモールスタートから次なるステップへの展開）

・チャレンジ精神を持って新たな技術や手法等を積極的に取り入れ、試行錯誤を重ねる中でイノベーションを起こし、最適なサービスの創出に繋げていくための体制を整備。

・エリアごとに地域住民等と目指すべき姿をともに考え、その実現に向けてモデル的な取組みから着実に実施（スモールスタート）。発現した問題に素早く対応し、推進力を維持したままエリア内に展開。
エリア内での複数の取組みがつながり、より良いサービスに進化するとともに、他エリアへの横展開によりオール千葉市のサービスに発展。

・中立的な立場でプロジェクトを牽引し、調整する人材（アーキテクト）を中心とした産官学民で構成する検討チームを組織し、行政が主体的に関わる中で取組みを推進。
段階的に行政の主体性を希薄化し、将来的には検討チームが新たな役割を担うエリアマネジメント団体に発展。

・市で共通的に活用する機能が集約され、かつ、スマートシティで導入する様々な分野のサービスを容易に連携できるデータ連携基盤（都市ＯＳ）についても、サービス展開に合わせたニーズに応じて整備し、将来的に各エリアの都市ＯＳ間でデータ連携を実現。

○市全体として統一的な対応が求められる取組み

・地域住民が検討チームに参画するためのプラットフォーム形成や各エリアでのデータの取扱いに関するルール策定など、検討チームの運営に係る共通的な事項をはじめ、環境や行政ＤＸ分野の取組みなど、市全体として統一的な対応が求められるものについては、行政が主体的に推進。

7　推進体制・推進手法③

スマートシティの推進イメージ

【STEP1】対象エリアでの取組み

市民ニーズ

課題

検討チーム設置・アーキテクトの選任

サービス検討・創出・モデル実施

検証・改善・エリア内展開

【STEP2】対象エリアで複数の取組みを連携

新たな市民ニーズ

新たな課題

サービス検討・創出・モデル実施

検証・改善

都市ＯＳ（データ連携基盤）の検討・構築

サービス間連携・エリア内展開

以降、サービス創出・連携のローリング

【STEP3】他エリアへの横展開

7 推進体制・推進手法④

スマートシティの推進イメージ（詳細）

	【対象エリアでの取組み】		【他エリアへの横展開】
サービス	・モデル実施からエリア全域へ ・特定の課題を解決するための単一サービス	・モデル実施からエリア全域へ ・複数の課題を解決するための複合サービス	・複数エリアに同一サービスを拡大し、オール千葉市のサービスに発展
体　制	・産学官民による検討チーム（ｺﾝｿｰｼｱﾑ）の組成 ・エリア内のプロジェクトを牽引するアーキテクトの確保	・検討チームからエリアマネジメント団体に発展 ※地域全体を都市マネジメント	・複数のエリアにおいてエリアマネジメント団体が設立 ・各エリアのアーキテクトが連携
サービス利用者	・対象エリアの市民等		・対象エリアの市民から全市民へ拡大
行政の役割	・主体的にプロジェクトを主導	・他のステークホルダーと対等の立場でプロジェクトを推進	
データ連携基盤（都市OS）	・将来的な導入を見据えた仕様等の検討	・エリア内の複数のサービスを連携するための基盤整備	・各エリアの都市OS間でデータ連携を実現

8 ロードマップ

スマートシティの取組みが市民生活に浸透し、一般化している状態を想定したロードマップを示します。

	現状	５年後	１０年後
サービス展開	分野ごとの課題解決策の検討・実施	分野横断的な課題解決策の検討・実施	エリアマネジメントによる課題解決策の検討・実施
テクノロジー実証	先行エリアにおける実証（自動運転・ドローン等）	先行エリアにおける実装 他エリアにおける実証・実装	実装事例の横展開・全市展開
データ連携	サービスごとのデータ利活用 オープンデータの利活用 データ連携基盤（都市OS）の検討	サービス間のデータ連携 官民データ利活用・連携 データ連携基盤（都市OS）の構築	データ連携基盤（都市OS）によるデータ連携
市民参加	市民対話会やパブリックコメント、地域の代表者による会合等	デジタル活用による参加機会の拡大 参加世代の多様化によるコミュニケーション活性化	行政と地域との双方向のコミュニケーションによる地域主体のまちづくりを実現

２０年後のイメージ

みんなでつくる「快・適」なまち！の実現

- バーチャル空間とデータを活用によるリアルタイム課題解決、将来課題予測の実現
- ビッグデータやAIを活用した各種サービスの生活インフラ化
- あらゆる市民がつながり、市民主体のまちづくりの実現

※　現実に実在しているものを、デジタル空間でリアルに表現したものを指し、現実世界の仕組みや稼働状況などをデジタル空間に構築し、リアルなシミュレーションを可能にする技術